

外国クルーズ客船寄港による福岡市経済への波及効果等調査
報告書
(概要版)

平成 22 年 1 月

福岡市

1. 寄港概要

平成 21 年の中国発着の外国クルーズ客船の寄港回数は 24 回

福岡市においては、平成 20 年より中国発着の外国クルーズ客船の博多港への寄港が本格化し、平成 21 年は 24 回寄港した。

船名	レジェンド・オブ・ザ・シーズ号	コスタクラシカ号	コスタアレグラ号
船社名	ロイヤル・カリビアン・インターナショナル社	コスタ・クルーズ社	コスタ・クルーズ社
定員等	2,074名、7万t	1,766名、5万t	1,072名、3万t
福岡市以外の寄港地	上海、釜山	天津、上海、済州島 長崎、鹿児島	上海、済州島、長崎、鹿児島
平成21年寄港回数	1回	16回	7回
主な乗客の国籍	欧米、中国	中国(約8割)	中国(約8割)

博多港への着岸後は、中国人クルーズ船乗客の多くが福岡市及び近郊を巡る日帰り観光バスツアーに参加し、観光とともに買物（主に天神地区）を楽しんだ。

【寄港の一日のスケジュール（コスタ・クルーズ社（団体バスツアー）の例）】

8:00 博多港に着岸 → 8:30 乗客が下船開始 → 観光バスで団体ツアー実施（九州国立博物館 → 太宰府天満宮 → 昼食 → 福岡タワー → 天神でショッピング(2.5時間程度)） → 17:00 帰船 → 18:00 博多港を離岸

2. 調査概要(調査機関:九州経済調査協会)

平成 21 年 9 月 18 日、23 日のコスタクラシカ号の博多港への寄港時に、中国人の乗客を対象にアンケート調査を行うとともに関係機関へのヒアリングを実施した。

【外国クルーズ客船乗客消費額】

アンケート結果から乗客一人あたりの福岡市内での平均消費額（33,276 円）を算出し、平成 21 年の年間寄港人数 29,300 人を乗じて、年間消費額（直接効果）を算出した。

【寄港に伴うその他関連支出】

ヒアリング等を基に一寄港あたりの支出額を推計し、平成 21 年の寄港回数 24 回を乗じて、その他関連支出額（年間）を推計した。

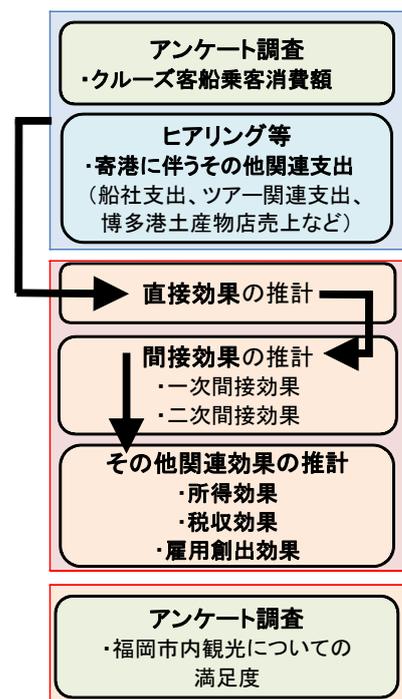
【推計にあたって】

一寄港あたりの経済波及効果については、乗客平均消費額（33,276 円）に一寄港あたり平均乗客数 1,221 人（平成 21 年）を乗じることで、一寄港あたりの乗客消費額を算出し、経済波及効果の推計を行った。なお、「コスタクラシカ号」が 24 回すべて寄港したものとして、経済波及効果（平成 21 年）の推計を行っている。

【経済波及効果の推計】

算出・推計された「外国クルーズ客船乗客消費額」と「寄港に伴うその他関連支出」により、福岡市産業連関表 32 部門表（平成 12 年表）を用いて、経済波及効果（直接効果・間接効果）、所得効果、雇用創出効果、税収効果を推計した。

調査フロー



アンケート実施結果

	第1回	第2回	2日間合計
実施日	9月18日	9月23日	-
アンケート対象者	クルーズ客船乗客の内、 市内ツアーに参加した中国人乗客		
乗客数(乗船率)	1,142人(64.7%)	1,581人(89.5%)	-
アンケート配布数	600	600	1,200
アンケート回収数	575	547	1,122
アンケート回収率	95.8%	91.2%	93.5%

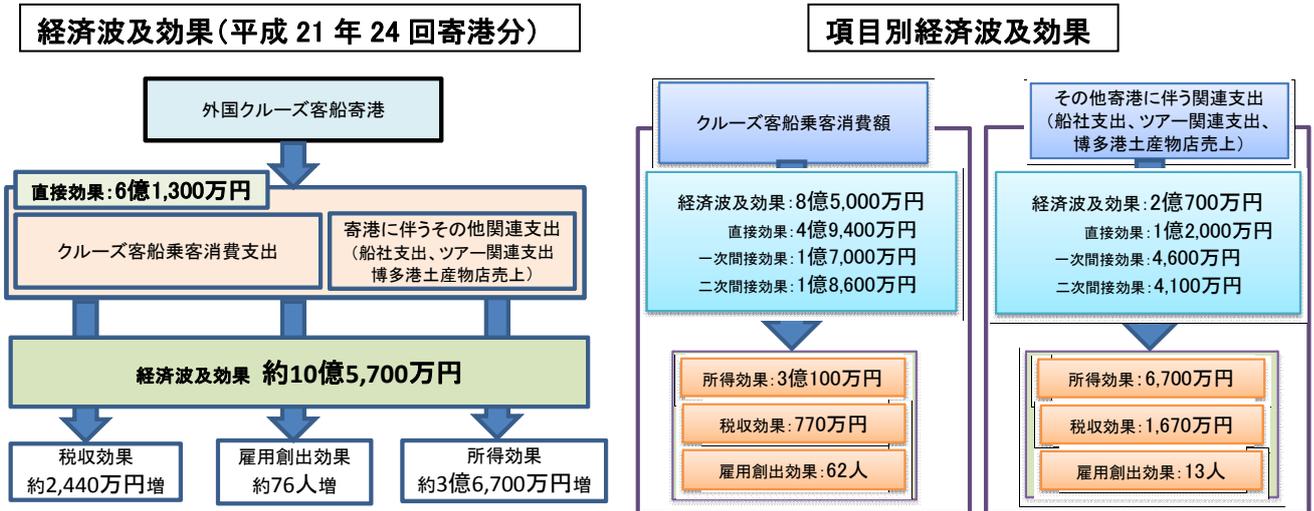
2. 経済波及効果

(1) 平成 21 年 (24 回寄港) の外国クルーズ客船寄港による福岡市への経済波及効果

福岡市への経済波及効果は 10 億 5,700 万円

平成 21 年に 24 回寄港した外国クルーズ客船による福岡市経済への波及効果は、およそ 10 億 5,700 万円である。

それに伴って市内で増加した雇用者所得は 3 億 6,700 万円、また、新規雇用の創出はおよそ 76 人と推計された。(※単位未満四捨五入のため、計は一致しない。)



(2) 一寄港あたりの経済波及効果

**経済波及効果は一寄港あたり
約 4,400 万円**

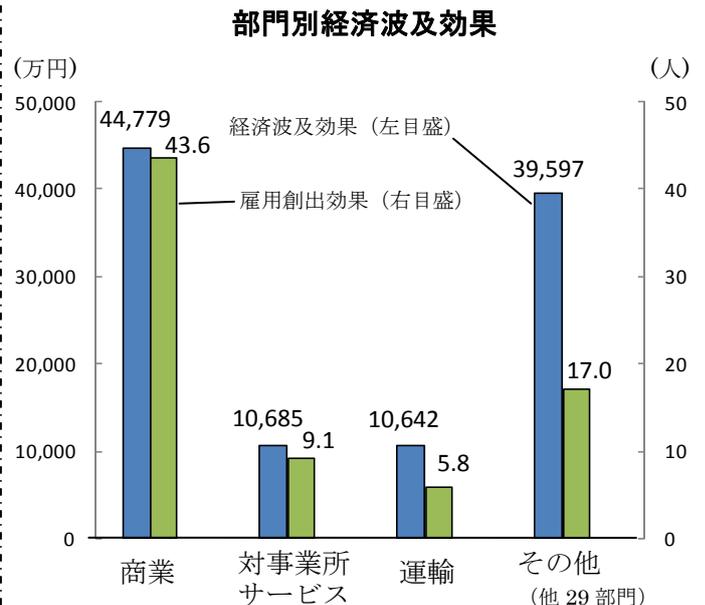
経済波及効果(計)	44.0百万円
直接効果	25.6百万円
一次間接効果	9.0百万円
二次間接効果	9.5百万円
所得効果	15.3百万円
税収効果(計)	101.7万円
個人税収効果	24.1万円
法人税収効果 (入港料+岸壁使用料含む)	77.6万円
雇用創出効果	3人

注) 単位未満四捨五入の為、計は一致しない

(3) 産業部門別経済波及効果

商業部門での経済波及効果が大きい

外国クルーズ客船乗客は主に百貨店などで消費を行うため、商業部門での経済波及効果が大きい。



3. 消費効果

(1)一人あたり消費額

外国クルーズ船乗客の平均消費額は約3万3千円

乗客一人あたりの平均消費額は33,276円であり、消費額の多い品目順に「電化製品」「化粧品・医薬品」「食料品・飲料品」となる。消費金額については、1万円以上3万円未満が29.1%と最も多い。

消費金額の高い上位5品目

	消費金額(円)
電化製品	11,432
化粧品・医薬品	4,579
食料品・飲料品	4,513
衣料品	3,861
時計	3,782

(2)銀聯(ぎんれん)カードの使用

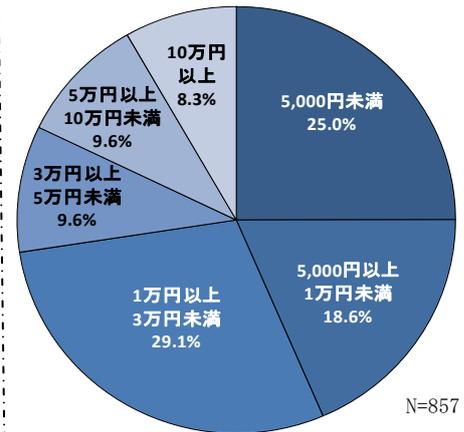
買物で銀聯カードを使用したと回答した乗客の平均消費額

約7万円 ※銀聯カードを使用しなかった場合と比較して3.5倍の消費額であり、銀聯カードによる消費促進効果が見られる

銀聯カードを使用したと回答した乗客の消費額は70,228円で、使用しなかったと回答した乗客の消費額19,886円の3.53倍となっている。

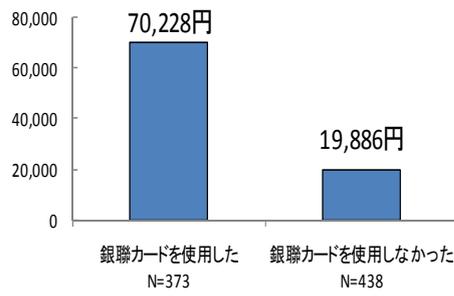
銀聯カードを使用したと回答した乗客の約3割が5万円以上の消費を行っている一方、使用しなかったと回答した乗客で5万円以上の消費を行っている乗客は1割である。

乗客消費金額の割合 (※消費を行っていない者は含まない)



消費金額 (銀聯カードの使用別)

注) 銀聯カード使用には現金との併用を含む

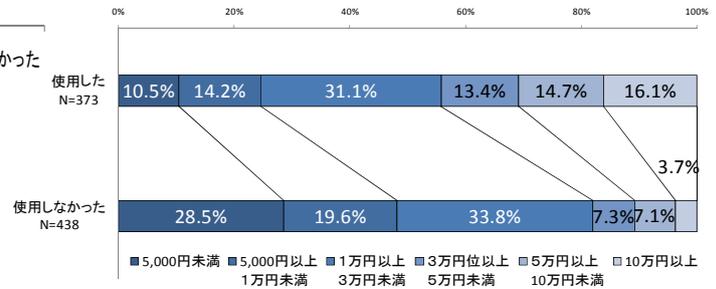


銀聯(ぎんれん)カード

中国銀聯(中国における銀行間決済ネットワーク運営会社)が発行するキャッシュカードで、銀行口座から即時決済を行うデビット機能が付いたもの。中国本土での普及率が高いことと海外旅行時の外貨持ち出しが5,000ドルまでに制限されていることから中国人のショッピングでの利用率が高い。

消費金額の割合(銀聯カードの使用別)

注) 銀聯カード使用には現金との併用を含む



4. 観光・消費動向

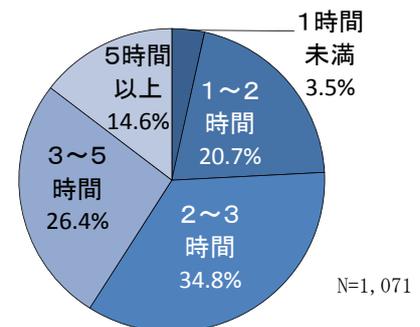
(1)ショッピングに必要な時間

乗客の75パーセントが希望するショッピング時間

2時間から5時間程度

現行ツアーのショッピング時間が2時間前後であるため、外国クルーズ客船乗客は、より多くのショッピング時間を希望している。

ショッピングに必要な時間

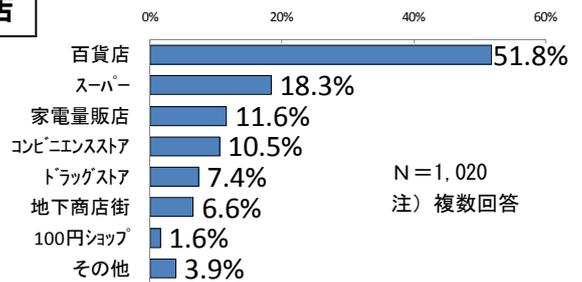


(2) 市内買い物場所

主なショッピング場所は **百貨店、スーパー、家電量販店**

乗客のツアーにおける市内のショッピング場所は、百貨店が最も多く、次いで、スーパー、家電量販店となっている。

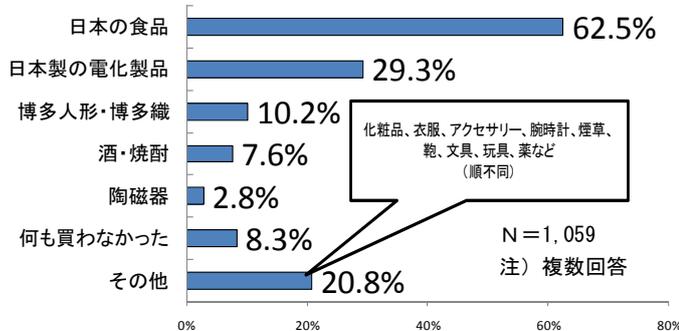
市内買い物場所



(3) 購入した日本のおみやげ

日本製の食品・電化製品、博多人形・博多織が人気

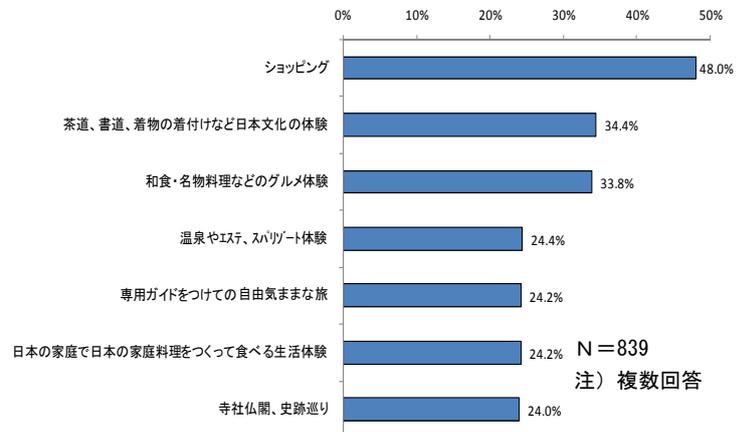
購入した日本のおみやげ



(4) 市内での観光ニーズ

ショッピング
日本文化の体験
和食などのグルメ体験

福岡市内での観光ニーズ



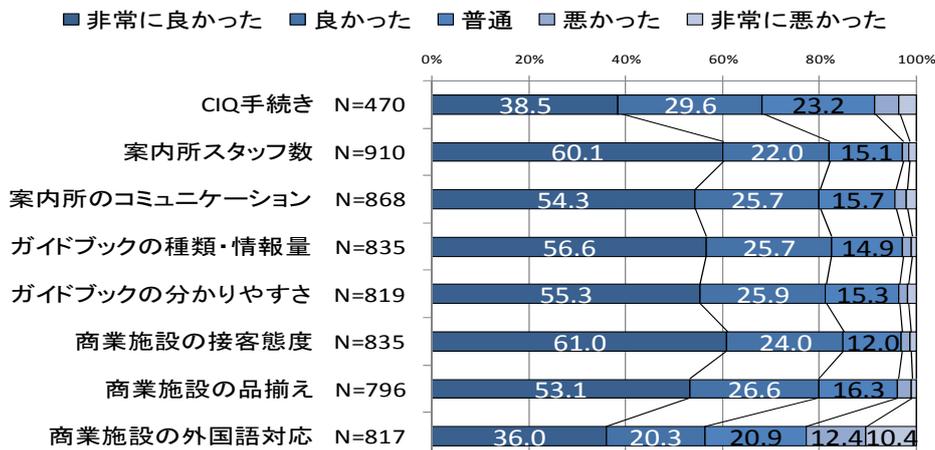
(5) 福岡での観光についての乗客の満足度

乗客は福岡での観光に概ね満足している一方、商業施設の外国語対応については課題あり

乗客は博多港上陸時の対応（入管、臨時観光案内所）や福岡観光での対応全般に概ね満足している。

一方で、商業施設の外国語対応については、「悪かった」「非常に悪かった」が約2割を占めている。

福岡での観光についての満足度



5. 調査結果についての考察 ～ 今後のクルーズ船誘致と寄港受入に向けた取り組み ～

(1) 平成 22 年の外国クルーズ客船(中国発着)寄港による福岡市への経済波及効果予測

経済波及効果は28億9千万円(平成 22 年 66 回寄港予定分)

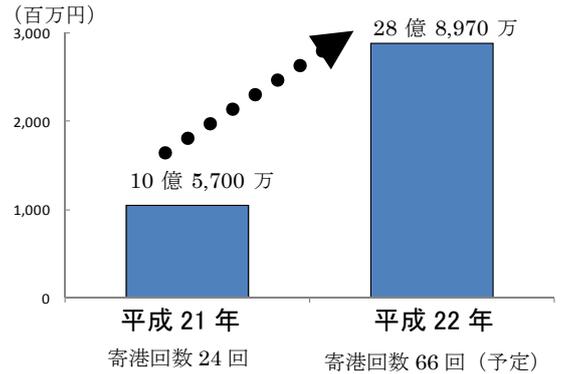
平成 22 年は 66 回の中国発着のクルーズ客船の博多港への寄港が予定されており、今回の調査結果から福岡市への経済波及効果はおよそ 28 億 8,970 万円と推計、予測される。さらなる経済波及効果をもたらすためには、クルーズ客船の寄港数を増加させていく必要がある。

**経済波及効果推計結果
(平成 22 年 66 回寄港予定分)**

経済波及効果(計)	2,889.7百万円
直接効果	1,676.5百万円
一次間接効果	591.7百万円
二次間接効果	621.5百万円
所得効果	1,005百万円
税収効果(計)	6,696万円
個人税収効果	1,579万円
法人税収効果 (入港料+岸壁使用料含む)	5,117万円
雇用創出効果	207人

▷税収効果
約7千万円
▷雇用創出効果
約 200 人

経済波及効果の推計比較



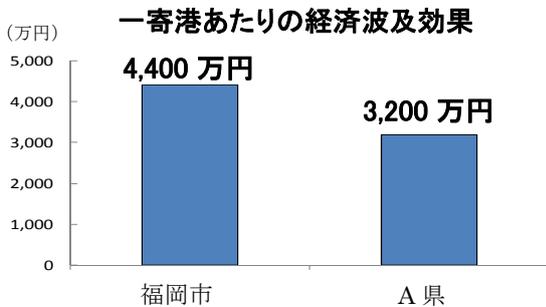
注) 単位未満四捨五入のため、計は一致しない

(2) 一寄港あたりの経済波及効果が比較的高い

福岡市の一寄港あたりの経済波及効果は他寄港地と比べて高く、商業エリアが充実しているのが強み

☞ 港に近接したショッピングエリア(百貨店、家電量販店など多様な商業店舗が集積)を一層活かす

福岡市の一寄港あたりの経済波及効果は4,400 万円で、九州他港の調査結果(2006 年 A 県調査結果の3,200 万円)と比べ、約 1.4 倍と高い結果となっている。九州を代表する商業エリアを有する博多港の強みを一層活かしていく。



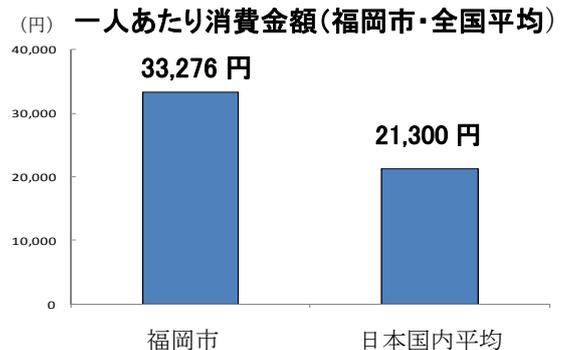
注) A 県の直接効果の推計方法は今回の調査と異なるため、参考値として掲出

(3) 短時間の滞在で消費効果は高いが、回遊性の向上が課題

短時間で消費行動を行うことから、クルーズ船乗客の消費特性を踏まえた買物しやすい環境づくりが課題

- ☞ 買物時間の延長と立ち寄り場所の増加
- ☞ 銀聯カードの端末機導入、両替所の増加
- ☞ 商業施設の外国語対応、外国語案内表示の向上

クルーズ乗客はおよそ 2.5 時間の市内買物時間で一人あたり約 3 万 3 千円消費しており、中国人団体ツアー観光客の 1 日あたり平均消費額(全国平均約 2 万 1 千円)と比較すると約 1.6 倍の消費金額であり、消費効果は高い。限られた寄港時間の中で消費行動を行うことから、消費額増加のための買物しやすい環境づくりが必要である。



資料) JNTO 訪日外客消費動向調査 2007-2008

福岡市経済振興局集客交流部

電話 (092) 711-4353

FAX (092) 762-4442